令和７年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立長良特別支援学校

学校番号	１０３

自己評価

学校教育目標	一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、個別具体に応じた教育活動を行う

評価する領域・分野	「学校教育全般」
現状及びアンケートの結果分析等	・教育活動に関するアンケートでは、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答が全体の９０％以上を占め、当校の教育活動について概ね理解・評価をいただいている。特に、「活動の工夫」「相談しやすさ」「親切」「愛情」「熱心さ」といった職員の姿勢や、「創作・表現活動」「感染拡大防止に努めた安全安心な教育」についてはほぼ１００％に近い肯定的評価であった。 ・一方、「分からない」の回答が６．９％あり、学校としての情報発信のさらなる充実が課題である。 ・当校では、自宅や隣接する長良医療センターからの通学生・訪問生等、多様な学びの場を展開している。それぞれの実態や健康状態に応じた機器の活用や、キャリア学習の情報発信をより一層進める必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・児童生徒を守りきる安心安全な体制の整備推進 ・人とのかかわりを通した豊かな表現力、自己肯定感を育てる教育の推進 ・確かな学力と生きる力を身に付けることができる病弱教育の充実 ・病弱教育に対する理解啓発の推進
重点目標を達成するための校内組織体制	・児童生徒の体調急変時・緊急時の対応について、職員全員が共通認識をもち、適切に行動できるよう体制を整える。 ・積極的な授業公開や授業改善の機会を設け、授業力の向上を図る。
目標の達成に必要な具体的取組	・医療的ケアに関する研修および緊急時対応訓練の実施 ・隣接する医療センターとの危機管理体制づくり ・オンラインを活用した多様な交流の展開 ・専門家支援、教材教具紹介、公開授業週間、授業づくり・授業改善の推進 ・授業研究・授業交流の日を設定し、話し合いの場を意図的に確保 ・病弱担当者会や研修会、コア・スクール授業公開等を通した病弱教育の理解啓発の推進
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・緊急時を想定し、児童生徒の安全確保が適切に行われているか。 ・発達段階等に応じた表現方法の課題設定と適切なＩＣＴの活用が行われているか。 ・病弱教育を必要とする児童生徒のニーズを把握し、理解啓発を進めたか。
取組状況・実践内容等	・人工呼吸器等に関する研修や緊急時対応訓練を行い、医療的ケアへの理解を深めた。 ・隣接する医療センターとの連携により、非常変災時の連携体制の整理を進め、危機対応の基礎を構築した。 ・オンラインを活用した部集会・学校間交流、交流籍校交流・他の特別支援学校との交流など、多様な交流を実施した。 ・授業改善シートや単元計画の活用、専門家支援、公開授業週間等を通じて授業づくりを推進し、授業研究の機会も増やした。 ・病弱教育担当者会、病弱教育研修会、コア・スクール授業公開等を通して県内の病弱教育関係者への理解啓発を推進した。 ・多くの方が行き交うショッピングセンターや地元に根付いているお店の店舗にて『夢発進！ながらドリームアート展』を開催することで、地域とつながる貴重な機会をもつことができた。

評価の視点	評価
①　児童生徒の体調急変時・緊急時について必要な対応ができたか。 ②　豊かな表現力や自己肯定感を高めるために児童生徒の実態に合ったＩＣＴ活用ができたか。 ③　教育活動等の情報発信ができたか。	Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｄ Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｄ Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｄ
成果・課題	総合評価
〇体調急変時及び緊急時訓練を職員がそれぞれの場面を想定して取り組んだ。 〇それぞれの部において、ＩＣＴ機器を用いた様々な活動を行い、その中で仲間意識やつながりが育った。 〇その都度、話し合いの場や体験の場を持ちながら対応ができた。 〇今後は、その経験を次年度以降につなげていくとともに、より充実を図っていく必要がある。	Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｄ

来年度に向けての改善方策案	〇交流活動において児童生徒一人一人のキャリア形成の視点に立った体験的活動を実施する。 〇教材教具の工夫やＩＣＴに関する研修を進め、授業の質をさらに高める。 〇個別の教育支援計画・プロフィールシートを整理し、保護者が活用しやすい形にし、その理解促進を図る。 〇ＰＴＡ活動見直し１年目となる中、加入者減少による保護者ネットワークの保持・構築を進める。 〇今年度の成果を単年度で終わらせず、来年度以降も継続的に改善していく姿勢をもつ。

学校関係者評価　（令和８年２月３日実施）

意見・要望・評価等
・学校で学ぶ通学生の児童生徒と、家庭や病院で学ぶ訪問教育を受ける児童生徒とのオンラインを活用した交流が計画に実施され、多様なつながりを生むことができている。また、児童生徒の実態に応じたＩＣＴを活用した支援が行われ、保護者の思いに寄り添った先進的な教育活動が実施されている。また、理学療法士等の外部専門家による助言体制の整備も整っており、児童生徒への支援の充実が図られている。地域の店舗で実施する『夢発進！ながらドリームアート展』は作品展示を通して地域とのつながる大変意義深い取組であり、これらの活動を保護者や関係機関、地域へ積極的に発信していってほしい。 ・非常変災時訓練については、当事者である児童生徒本人たちが参加する訓練の在り方を含め、今後の検討と実施を期待する。